

中日新聞「ぶかつ道」のコーナーに

JRC部が採り上げられました

平成29年12月28日(木)

中日新聞 朝刊 県内版

※中日新聞許諾番号 20171229-20475

禁・無断転載

杏和高・JRC部 (稲沢市)



「ベガサスはきょうも美しい」「ドラゴンは勇敢な姿だなあ」せりふを言いながら全身を大きく動かし、手話に感情を乗せる。表情も悲しそうに、うれしそうにと目まぐるしく変化させる。

十月に鳥取市で開かれた「全国高校生手話パフォーマンス甲子園」手話による表現力や正確さを競う大会で、人間とベガサスなど伝説の生物との共生を描いた芝居を一、二年生九人が約八分間、掛け合い調の歌やダンスを交えて演じ、準優勝した。

奉仕活動に力、手話甲子園 準優勝



手話を練習する生徒
稲沢市の杏和高で

JRC部はJunior Red Cross (青少年赤十字)の略で、日本赤十字に加盟。本年度は二十八人が所属する。

「パフォーマンス甲子園」には一五年から参加。リーダーの二年飯田真世さん(も)は「優勝を目指していたので悔しいけれど、音やリズムの楽しさを伝えられた」と話す。

来年の大会を見据え表現力を高め、より伝わるパフォーマンスに仕上げようと、本格的に手話の勉強を開始。これまでは台本を覚えるだけだったが、ろう者を招き、月に二回、指導を受ける。

飯田さんは「ろう者の方とたくさん交流できるようになった」と意気込む。(秦野ひなた)